

顔の見える木材での快適空間づくり事業

【テーマ】 コロナ禍における4、5歳園児の木育教育「実践編」
未来の木材事業者及び利用者の育成

背景と目的

【背景】全国で猛威を奮うコロナウィルスの影響で、本来であれば野山を遊びまわる園児達は、家庭や子ども園内の活動に制限されている。このような状況から、令和3年で子どもたちの思い出に残る行事を考え提案します。

【目的】園児を対象に木育教室を行うことで、こどもの頃から木、花、植物に関心を持ち、成長とともに木に対する理解を深め、いずれ日常の生活に取り入れてもらう。また木の果たす役割を知り、森づくりに貢献できる人材の育成を目指します。

対象とするA材丸太を原材料とする付加価値の高い木材製品

子どもたちには、自ら木と触れて頂き、木の香り、質感、木目の面白さ及び節の存在を認識していただきます。

- ①園児が、当社で準備した絵本の印刷物を製本した後、読み合わせする。
- ②「木」「花」を描いて、コンパネ大(1.8m×0.9m、園の人数で変更)のパネルを作り、園に飾っていただきます。
- ③木工おもちゃ作家による木育につながるDVD映像と木工作品作り

②パネル製作

台紙のサイズ、園児数に合わせ台紙を配布



泉洋化工でインクジェットで板に作製(イメージ)



泉洋化工で完成後、園や施設に飾ってもらう

写真・図等

①絵本の題材

【もりはすごいなあ】



③木工作品作り



※サンドペーパー付

事業実施主体

エコウッド富山(株)

実施体制・連携グループ

【事務局】エコウッド富山(株):木材生産、加工、クリーンウッド登録事業者
合法木材供給事業者【原木供給】野村木材(株):木材生産
【加工】泉洋化工(株):木製家具【企画】IKARI木工舎:木育、木製家具
【コーディネータ】(株)北日本新聞開発センター:コーディネータ、DVD製作
【協力連携】富山県木材組合連合会:蓄積された木材のアドバイザー
私立子ども園園長:子どもたちの現状を踏まえてのアドバイザー

事業内容(利用拡大に向けた具体的な実施項目)

①絵本の製作(A材裏表紙に使用):園児による絵本の作成

絵本には、ほのぼのとした田舎の6人家族が登場。森の仕事をしているおじいちゃんを中心に森林資源の循環・効果をわかりやすく紹介する。荒天日の夜、豪雨・強風が家屋を襲うが森のお陰で家族皆が守られる内容。森で生産されたA材を絵本の裏表紙に使用し、森との関係を子ども達に説明します。

②パネルの製作(A材パネル板):デジタル化後、インクジェットで板に転写
散居村の家屋の周囲にカインコと呼ばれる屋敷林があり、冬の厳しい風雪害の防御としている。この環境下で生育した山沿いの杉林を使い、パネル板(A材)に加工・連結させコンパネ大の大きさに(園児数に合わせ)園児が描いた絵をインクジェットで飾ります。

③DVDによる木育教室(A材積み木):おもちゃ作家による木工作品作り
富山県子どもみらい館でも活躍されている木工のおもちゃ作家「五十里伊規子氏」は、廃校になった旧赤毛小学校の校舎を作業場にしたり、氷見市海浜植物園のリニューアル化に貢献され、大勢の親子を楽しませている。この五十里氏の経験を生かし、積み木にペイントをして置物をつくる様子をDVDに収録、各園で紹介、実際の積み木を使用して体感。
※木工おもちゃの積み木はA材の広葉樹(サクラ、クミクヌギ等)を使用

④木育用に商品化

試作品を作り協議会の場及び子どもたちの反応を見ながら商品化します。

スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

協議会
教材の発注

絵本づくり

中間協議会
パネル作成

DVD作成
木育教室

評価協議会

報告書作成